

## 慢性病と共に生活する人とその家族の 経験を理解し、看護について考える

### 慢性病看護学 ? 概論とは

慢性病看護学は、概論と支援論の2つの科目からなります。『慢性病看護学概論』は慢性病をもつ人とその家族を理解する科目で、もう1つの支援論は、慢性病患者とその家族を支援するためのアセスメントや支援技術について教授しています。概論では、慢性病とともに生きることを学生がイメージできるよう当事者の体験を聞かせてもらったり、難病の主人公と家族が発症から終末期に至るまでの体験を描いた映画を通して、本人と家族の理解が遭遇する課題についての理解を深めてもらいます。

#### 【お知らせ】

教育ボランティアの方が  
本学図書館へ入館される際  
の手続きを簡便化いたしました。  
ぜひお気軽にご利用  
ください。

詳細は担当者にお尋ねく  
ださい。

編集・発行

神戸市看護大学

地域連携教育・研究センター

### 慢性病看護学概論

慢性病の多くは、個人の遺伝的な要因と生活習慣の影響が合わさり発症するとされています。代表的な疾患には、糖尿病や高血圧、脳梗塞や心不全など罹患者数が多い疾患のほか、筋萎縮性側索硬化症（ALS）やパーキンソン病などの難病があります。これらの病をもちながら生活される人とその家族は、病気を発症したときから、生涯にわたり病（やまい）を管理し続けることとなります。その病の経験は、例えば疾患は同じでも、お一人おひとり、ご家族ごとに違います。

また慢性病は見た目にはわからない場合も多いので、地域には多くの慢性病の方がおられても、改めて病者の経験を聞く機会を設けないと、病者の経験は知ることができないのが現状です。

今年度は、慢性病をもちながら地域で生活されている二人の教育ボランティアの協力を得て、教員がインタビューアーとなり各々のボランティアに病気体験を語って頂きました。質問させて頂いた内容は、発症時の様子・加療のため入院された時のご体験・退院後の自宅での療養生活・発症による家族や周囲の方々との関りや関係性への影響・印象に残った医療者のケアや助言などでした。

慢性病は生涯にわたり病気と付き合っていく必要があることから、慢性病看護では、生活者としてのその人（病者）を全人的に理解することに焦点を置いています。今回、お2人のお話しを聞いた学生は、〈病気により増悪要因や療養法が違うこと・一生病気と付き合うことの大変さを実感・病気をもちながら前向きに生きている力強さ・お一人おひとり考え方や生活が違うことがよく理解でき、実習では病者の話しをしっかりと聞くことの大切さが理解できた・急性期とは異なる慢性病の看護のイメージ〉について学ぶことができていました。なかには、「今日のお話しは、一生忘れられないです。」「日頃、実際に病気を体験されている方の体験を聞く機会がないので、今日のお話しはとても貴重な経験になりました。」との感想を書いた学生が複数みられたことは、私にとっても新鮮で、慢性病を日々生きておられるボランティアの語りによる力を改めて実感することができました。

今回、慢性病患者の理解を深めるため踏み込んだ質問をさせて頂いたにも関わらず、率直に体験をお話し頂きましたお二人には、心より感謝申し上げます。

（文責：慢性病看護学分野 池田 清子）

